



2018年11月1日着任

千葉 史朱香

ちば・ふみか

理論・計算分子科学研究領域

理論分子科学第一研究部門 事務支援員



2018年11月より齊藤グループの事務支援員としてお世話になっております。ご縁あって日々研究に励んでいらっしゃる先生方を間近でサポートできることをとても嬉しく思っております。至らない点ばかりですが、まわりの方々の温かいご支援に助けられ、日々充実した気持ちで取り組ませて頂いております。自分自身も成長していけるよう精進していこうと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

覽古考新 16 | 1999年

三年前の秋頃、博士課程を途中でほっぽり出し、めでたく分子研に就職することができましたが、噂通りの忙しい研究所で、表題のファクター3が如実に分子研を物語っていました。毎日どこかでやってる研究会やセミナー、滞在している外国人研究者の数、土日も無視してしまう程の仕事量など、「何もかもが他の研究機関の3倍程度違う」と毎日思っていました。物議を醸し出さない方がいいのですが、予算やポジションの流動性そして論文の数もファクター3近く違うのではないかと勝手に思っていました。要するに何に関しても、3倍多く、3倍早く、3倍高く、あたかもオリンピックの標語以上の実体を見てしまったわけです。良いにつけ悪いにつけ密度の濃い研究生生活と雑用生活を送ったので、相応の見返りのあった三年間でした。そんな様々な長所短所の中でも、横のつながりの良さには驚きました。私の在籍した理論研究系は複数のグループから成っておりますが、他のグループとの横の壁が無く、いつでもどこでも研究談義が自由に行われておりました。この環境が優れた仕事を生み出す一つの原因になっているのは間違い無いでしょう。私自身、他グループから多くのアドバイスを頂き、更には実験グループとの共同研究もさせていただきました。当然ながら面倒臭いことや辞易する雑用も多々ありましたが、そんな時も横のつながりの良さを遺憾なく発揮して、宴会の場で発散しました。公私共にこんなにも自由な雰囲気はなかなか得難いと今でも思っています。

分子研レターズ No.40「分子研を去るにあたり：とても濃い分子研（ファクター3の違い）」(1999年)
信定 克幸（北海道大学助手）